（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども早期療育支援センター　はぐくみ			
○保護者評価実施期間	R8 年　1 月　26 日	～	R8 年　2 月　20 日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	75	（回答者数）	68
○従業者評価実施期間	R8 年　1 月　26 日	～	R8 年　2 月　20 日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	15	（回答者数）	15
○事業者向け自己評価表作成日	R8 年　3 月　23 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子での療育により、保護者に子どもの発達特性の理解を深められる。	各自の発達の状況にあった療育（自己肯定感の養われる活動）を実施する。 療育の中で、活動の意図・子どもの特性（現れ）と好ましい対応を説明する機会とする。	保護者に活動の意図や子どもの反応などについて説明できるよう職員のスキル向上を図る。
2	職員研修を実施し、直接支援を行う保育士等のスキルの向上に努めている。	毎月１回、直接支援員を対象にスキルアップと資質向上を目指した研修を実施。 ①心理士を講師とした発達特性の理解と事例研修 ②外部講師（専門医、有識者）による事例研修及び講話 ③市内児童発達支援事業所への研修参加依頼	職員の研修や事例検討への積極的な参加。 公共の事業所としての意識を持ち、資質向上に取り組む。 市内児童発達支援事業所との情報交換と連携。
3	園訪問や療育公開を行い、園と連携・共通理解に努めている。	園の先生だけでなく、放課後デイサービスや小学校の先生にも公開し実際に療育を見てもらうことで、子どもの発達理解、療育方法など共通理解している。	各施設へ療育公開の周知に努める。 園訪問で、児の園での様子やはぐくみでの様子について具体的に話し合い共通理解に努める。
4	職員による発達特性に合わせた療育。	療育教室終了後のカンファレンスで、各児の個別支援計画に沿った支援の打ち合わせと、療育での各児の様子や行動を検証し、次回の療育の計画を立てる。	きめ細やかな検証と実効性のある療育の立案に努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者が共働きの世帯が多数となり、週1回本施設に並行通園で通うことが困難な世帯の増加に対応が困難。	就労のため、週1回の保護者と親子で療育に参加が困難な世帯が増加した。	お子さんへの対応の仕方など保護者への伝え方の工夫をし、参加会の回数を減らしていく。 並行教室の療育時間を伸ばし、保護者が相談する時間を確保する。
2			